

花カレンダー

樹種名	花期		3月	実		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	1月	2月		4月	5月							
タイワンツバキ	[花期]										[花期]	
ロウバイ	[香り]	[花期]										[花期]
サンシュユ			[花期]							[実]	[紅葉]	
ニオイサミズキ			[花期]								[紅葉]	
ミツマタ	[香り]		[花期]			[実]						
ユスラウメ			[花期]		[果期]							
ミツバツツジ			[花期]								[紅葉]	
ニワウメ			[花期]			[実]						
シダレザクラ			[花期]								[紅葉]	
シダレモモ(源平)	[香り]		[花期]									
ハナモモ(矢口)			[果期]									
ハナズオウ			[花期]			[実]						
ニオイハシマツリ			[花期]									
ハクサンボク	[実]			[花期]						[実]		
レンゲツツジ			[花期]									
サラサドウダン			[花期]								[紅葉]	
シロヤマブキ			[花期]					[実]			[紅葉]	
チョウジガマズミ	[香り]		[花期]					[実]			[紅葉]	
ニワザクラ			[花期]									
ハクウンボク	[香り]			[花期]				[実]			[紅葉]	
キソケイ				[花期]								
オオデマリ			[花期]									
ヤブデマリ	[香り]		[花期]					[実]				
常緑ヤマボウシ				[花期]								
カラタネオガタマ	[香り]			[花期]					[実]			
ライラック	[香り]		[花期]									
ハマナス	[香り]		[花期]					[実]				
ヒメウツギ			[花期]									
ギンバイカ	[香り]		[花期]						[実]			
バイカウツギ			[花期]									

目黒天空庭園 オーパス夢ひろば 植栽ガイド



大橋ジャンクションは、「目黒天空庭園」のほか、喚気所屋上に「自然再生の緑」、ループ壁面に「街並みの緑」としてつる植物（オオイタビ）を植栽するなど、エコロジカルネットワークの形成に寄与するグリーンジャンクションとして整備しています。

目黒区都市整備部みどり公園課

〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15

TEL 03-5722-9242(直通) FAX 03-3792-2112

URL: <http://www.city.meguro.tokyo.jp>

開園時間：目黒天空庭園 午前7時～午後9時
 オーパス夢ひろば 午前7時～午後7時(4月～10月)
 午前7時～午後5時(11月～3月)

目黒区

地球のいのち、つないでいこう



目黒区 生物多様性に配慮した街づくり

I 目黒区における大橋の位置及び沿革

江戸時代、目黒は江戸のまちの外周部に位置していたため、目黒不動や祐天寺、正覚寺などの寺社仏閣があり、参拝者などで賑わっていた。武家屋敷が目黒川の北側（南向きの斜面地）に並び、下目黒に細川家下屋敷（現在の目黒雅叙園）、青葉台には豊後の岡藩（大分県竹田市）藩主中川侯の抱屋敷（明治時代には西郷従道邸で現在は菅刈公園）、そのほかにも目黒川北斜面には、大名屋敷があった。現在の国道246号は江戸時代大山詣（もうで）に向かう大山道であり、ジャンクションに隣接する氷川神社の階段脇に道標が現存している。

このたび、江戸時代の交通の要衝であった場所に、中央環状線と首都高速3号線（都心から大山方向に向かう）を結ぶジャンクションができた。

江戸後期に目切坂の上につくられた元富士、新富士（中目黒2-1）、茶屋坂（目黒爺が茶屋）、行人坂（富士見茶屋）など目黒川の北斜面は富士見の名所であったことが歌川広重の名所江戸百景などでうかがえる。元富士は明治の初めになくなり、当時の石のほこらや富士講の碑などが氷川神社に移され、保存されている。

こうした経緯から、氷川神社にもミニ富士があり、南側の斜面階段を登山道に見立てて一合目、二合目・・・と標識がつけられている。山頂部の境内には浅間神社があり、目黒富士の名がつけられているが、現在ここから富士山は望めない。

目黒天空庭園について、基本構想では景観や環境に配慮し、地域のシンボルとすることと位置づけている。目黒川の北岸に位置するJCT屋上に回遊式天空庭園を整備することで、江戸時代に目黒川沿川にあった名所の庭園と並ぶ、現代の名園とすることとした。

なお、目黒天空庭園の最上部は、富士山を望むことができる場所であり、富士見台の名をつけた。かつて目黒川北斜面の各所にあった富士見の名所を再現するかのよう。

II 設計にあたっての基本的な考え方

1. 特色ある空間を創出し、地域はもとより目黒区のシンボルとなるよう、勾配のあるループ状の空間を活かし、散策して楽しめる回遊式の庭園として計画した。
2. 屋上という特殊な空間を活用して多くの人々がくつろげる緑豊かな空間とするため、和風なしつらえなどにより、人と自然が共生する日本の庭をつくり、「和」の文化を発見・体験できる空間とした。
3. 四季の感じられる彩り豊かな空間やくつろげる広場、散策して楽しめる潤いの森、防風植栽など、樹木や草花を用いて、周辺のみどりと調和した、みどり豊かな潤いのある屋上庭園とした。
4. 誰でも気軽に立ち寄れて、憩い、交流、休憩、散策できる潤いある空間とするため、施設のバリアフリー化を図り、安全で、安心して利活用できる和みの空間とした。
5. 海外からも注目されている空間でもあり、首都東京の顔となることを意識し、日本を代表する大規模屋上緑化空間として、屋上緑化の普及啓発や情報発信の場とした。

III 目黒天空庭園の設計概要

1. 「十の庭」を配し、様々な景を回遊しながら、和の文化を発見体験できる庭園とした。
2. 目黒の歴史・文化を踏まえ、日本の美意識や自然とのかかわりを意識しつつ、現代に日本文化を継承する和風モダンのしつらえの空間とした。
3. 目黒川北側斜面の頂上付近は、江戸時代から富士見の名所として有名であったが、現在富士が望める場所がほとんどない中で、新たな富士見スポットを設けた。

IV 修景・植栽コンセプト

1. 和風モダンな回遊式庭園として、日本的風情を演出するため園内全体をマツ類（アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ）を主体とし、これに花や紅葉など季節感を感じる桜類

- （シズカ、ゴテンバザクラ等）やコハウチワカエデ、シダレモモ（源平）ナツツバキ等、庭園に合う常緑樹（モッコク、ソヨゴ等）、庭木として一定程度仕立てられた樹木を十分な植栽空間を保ち、樹形美を生かした配植をした。また、園内の要所には、信楽焼きの陶製品（舗装材、大型植木鉢等）を多用し、修景効果を図った。
2. 風当たりの強い空間の防風植栽として、かつての農家の屋敷林や日本庭園で見られたシラカシを高生垣状に仕立てた。
3. 日本庭園の構成要素として欠かせない五山の築山（目黒区の五地区を表現）や、灯笼なども配し、四阿も極力和風な雰囲気を出すような仕上げとした。
4. 四季を感じる草花、「香り」のある樹木・草花を用い、地表面は多彩なグラントカバープランツによって修景を図った。芳香性植物を多種混色する手法を用い、要所に芳香性低木約30種を組み合わせた混植刈込み仕立ての配植をした。またクレマチスやカライトジャズミン、テカガズラ等の芳香性ツル植物をパーゴラや緑化フェンスに植栽し仕立てた。

<概要>

1)園名	目黒天空庭園
2)所在地	目黒区大橋一丁目9番2号
3)面積	約7,000㎡
4)位置づけ	都市公園法に基づく立体都市公園
5)立地条件 (道路区域)	道路構造物の屋上 ・高低差 約24m ・幅 約16~24m ・縦断勾配 約6% ・屋上耐過重 2t/㎡
6)盛土量	約5,000㎡
7)植栽本数	中高木 約1,000本 低木地被類 約30,000株
8)開園日	平成25年3月30日